

尾崎老人クラブ (阿久根市)

発表者：川崎 信一 氏

皆さん、こんにちは。

私は、かの有名な阿久根市から、尾崎の山奥から参りました。つたない話ですが、現状を皆さんにご説明しまして、今後、一層頑張っていくつもりです。貴重なお時間ですが、話は下手くそですが、ちょっとだけ耳を傾けていただきたいと思います。

阿久根市は9月末現在で人口が2万3,018人、65歳以上の高齢者は8,115人で35.2%、このような高齢の町であります。

さて、私の住んでいる集落は一段と高齢化が進み、尾崎全戸88戸、総人口196人、65歳以上は105人、75歳以上は73人という超高齢化集落でございます。

尾崎老人クラブの概要についてお話しいたします。



阿久根市の果物と言えば、皆さんご存じのボンタンが有名であります。尾崎地区はそのボンタンをつくっている農家が一番多い「文旦の里」でもあります。現在、ボンタンの木は8,000本、年間約5万個の生産量を誇っております。阿久根市の中心部より少し山沿いにあり、春はタケノコ祭り、タケノコ掘りの体験などで、夏はボンタンの花の香りのする時期で、川の流れが澄み切っていてきれいで、地域にはホタルが華麗な光を放っています。毎年、「螢の夕べ」などのコンサートには、この山合いの集落に250人以上の観客に集まっています。

秋はボンタン狩りを中心とした「いきいき祭り」、毎年、山荘をさがけて500人以上のいろんな外部からの参加者がございます。冬はボンタンなどの農産加工品づくりなどもやっています。

四季とのふれあいのある地域でございます。

四季とのふれあいのある地域でございます。

高齢化が進み、加速する高齢化農業の後継者不足、歴史継承者の意識の減少に、いかに今後を維持すべきか、数多くの問題を抱えています。

そこで、児童の健全育成と、高齢者が安心して生きがいのある暮らしを送れる地域住民の一体化を目指し、「自分でできることから始めよう。」というスローガンのもと、今、活動をしている現況でございます。

初めに、尾崎老人クラブの発足などについてお話ししたいと思います。

尾崎地区の区長、役員、歴代の経験者が、その後も何かこの集落で仕事を始めようという有志の方々の集まりで、尾崎老人クラブは発足いたしました。地域活性化のためにいろんな活動をやっています。



まず初めに、毎年、尾崎小学校との交流会、わら草履づくりの体験とか授業参観、秋季大運動会、文化祭、校区の行事、老人クラブはすべて参加するという一つの昔からの規定がございまして、皆、頑張ってもらっています。

次に、年間の行事としまして、それぞれの地域でも実施されると思いますけれども、まず6月は、「市さわやか連合会」から花の苗の配布があり、尾崎地区の道端を花できれいにしました。高齢者は昔から見守り活動ということを含めまして、各人の高齢者の方を家庭訪問いたしまして、ささやかですけれども、ティッシュペーパーと卵を配り、「ばあちゃん、じいちゃん、元気かい。」ということで非常に喜ばれております。

7月は、尾崎地区の草払い、奉仕作業、神社、公民館などの共用部分を含めまして、老人クラブ主体でそれぞれ参加していただいております。

8月は、地区のスポーツ大会、スケッチ大会、尾崎小学校児童とのふれあい活動の中で、現在、私は阿久根市立図書館で、民間委託しました鹿児島県下1号の市立図書館の業務の事務局長をやっておりますけれども、高齢化により、先ほどもありましたけれども、語り部、あるいは人材不足、ボランティア活動の限界、どうすればいいかという一つの課題で、鹿児島大学の教育学部と手を組みまして、名称は「莫祢（あくね）ゴールド創世塾（読み聞かせ

のプロをめざして)」という事業に取り組みました。昨年度は、24名の第1期生の卒業生を送り出しました。それについていろいろと批判は、ございましたけど、第1期生を送り込んで、もうプロらしくなりまして、現在は小学校、中学校、保育園、いきいきサロン、あるいは病院その他で実績を認められまして、スケジュール調整が困るほどいっぱい申し込みがあります。ただし、これはオール無料です。これからの1つの研究課題ですけれども、それぞれ、卒業生は20代から80代を超したバラエティーのある年代です。中には、教職経験の方もいらっしゃいます。今、1つのテーマが、若い世代と年寄りといかに密着し、また高齢者を訪問して昔話、踊り、健康体操、非常に人気を得ておりますので、今後とも、地域一体となって頑張っていく所存であります。

続きまして、9月は、道路等の花壇の手入れ、それから尾崎区主催の敬老会への参加、これにはほとんど、全員参加していただいています。

10月は、同じ校区ですけれども、山下地区のグラウンド・ゴルフ大会、それからちょうど学校の校区大運動会とございますけれども、これは尾崎地区の今の現状で全校生徒12名でござ



います。これが村の運動会となりまして、高齢化の老人会が参加しませんと成り立たないという現状ですけれども、一生懸命、年1回の村を挙げての運動会、さらに50歳組を迎えて華やかに維持していこうと頑張っている現状であります。

11月は、尾崎小学校で、毎年小学校とのふれあい学習というのがございますけれども、これは老





人クラブの皆さんが手づくり、わら草履づくり、お手玉づくり、様々な催し物で生徒と一緒に頑張っております。

12月は、先ほど言いました年2回ですけれども、高齢者の自宅訪問。これは役員を中心にやっておりますけれども、ささやかにティッシュペーパーと卵1箱、これでおばあちゃん、おじいちゃん連中に「頑張ってね。」ということで今進めております。



それからもう一つは、12月の初めになりますけれども、年に1度の阿久根で皆さんご存じだと思いますけれども、ボンタンマラソンと同時に、尾崎地区のいきいき祭り、これは集落挙げて全部参加し、その中に老人クラブの特設コーナーを設けてみんなで頑張っている。こういう現状であります。

各地区でやっていらっしゃると思いますけれども、1月は、物故者の追悼法要。それから2月、3月は役員会。これが、年間事業報告でございます。

さらに、最近始めましたのが、高齢者をどうするかという問題。小学校の運動場をお借りしまして、毎週土曜日にグラウンド・ゴルフをスタートしました。それぞれ役員の方が頑張らして、毎月参加者が、ものすごく多くなりまして、今後、これを進めて、1つの老人活動の一環としてやっていきたいと思っております。

その次に、今は地区のお話をしましたけれども、あとはやっぱり同じ共同でやっています

阿久根市のさわやかクラブ、今年から名前を変えましたけれども、老人クラブは名前がよくないとかいろいろありまして、公募で阿久根市のさわやかクラブ連合会と、これにも積極的に参加しまして、年に2回あります市内全体の大会。それから、阿久根市は人口が少ないんですけど、80チーム以上は集まり、なかなか盛大に動かしております。

最後に、限界集落と言われている阿久根市の尾崎地区であります。その中で、やはり今からどう頑張っていくかということで、「できることから始めよう。」というスローガンのもと、いろんなすべての催し物で頑張っていきたいと思いき、日本全国区になりました阿久根市ですけども、尾崎の山の中の少ない中から、今後も、一生懸命頑張ります。

また、表彰されまして、あわせて御礼申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。